

第4研究課題 第4分科会

「組織・運営に関する課題」

研究主題 「チーム学校を推進するための教頭の役割」

——— 魅力ある学校・職場にするための教頭の関わり ———

松野町立松野中学校 新城 裕 志

1 研究の概要

今年度は、「愛媛県学校における働き方改革推進方針」に示された設定年度の最終年度である。北宇和郡内の各学校でも校務支援システムが導入され、業務負担軽減のためにICTが活用されている。学校日誌・保健日誌の作成や出勤・退勤時間の管理・把握、成績処理や徴収金の管理等、システム上で管理できるよう業務改善を推進している。

鬼北町と松野町の11校から成る北宇和郡は、児童生徒数の減少により、小規模校化を余儀なくされている。鬼北町では、日吉小・中学校が、県下に先駆けて平成25年度からコミュニティ・スクールに取り組み、他の学校も、平成28年度から平成29年度にかけて順次取組を始めた。松野町では、今年度から「松野町立学校における学校運営協議会」を立ち上げて、地域に根ざした学校づくりを町全体で取り組む体制が出来上がった。それぞれの地域の良さを生かして、更に地域に根ざした学校となるべく、各校が特色ある学校づくりに取り組んでいる。

子供たちを取り巻く環境や学校が抱える様々な課題は、複雑化・困難化している。このような状況の中、これからの学校は、社会と連携・協働した教育活動を更に充実させることが求められている。魅力ある学校・職場にするために、そして、地域に根ざした「チーム学校」を推進するために、教頭としてできることを実践していきたい。

2 研究の内容

実践内容	教頭としての役割
(1) 北宇和郡小中学校の取組	
ア 各校へのアンケートの実施	○ アンケートによる実態把握
イ 結果の概要と考察	○ 結果の分析と共有
(2) 自校の取組	
ア 地域とつながる学校となるために	○ 学校と地域との橋渡し
イ 充実した勤務にするために	○ 組織としての取組
ウ 情報発信活動	○ 保護者・地域への発信活動
(3) 成果と課題	
ア 成果	○ 成果と課題の確認、共有
イ 課題	

3 教頭としての今後の課題

- (1) 地域の特性を生かした多様な教育活動の展開と、家庭・地域との連携を深め充実させるために、教頭としてどのように関わればよいか。
- (2) 魅力ある学校・職場にするために、校内の組織体制づくりや教職員の働き方に対する意識改革に、教頭としてどのように関わればよいか。

1 はじめに

北宇和郡内の各学校でも校務支援システムが導入され、業務の負担軽減のためにICTが活用されている。そして、諸帳簿の作成や出勤・退勤時間の実態把握等、システム上で管理できるよう業務改善につながる歩みが始まっている。

北宇和郡の小・中学校は、児童生徒数の減少により小規模校化を余儀なくされている現状がある。しかし、この地域性を逆に生かして、鬼北町では日吉小・中学校を皮切りに、県下に先駆けてコミュニティ・スクールに取り組んでいる。松野町では、今年度から「松野町立学校における学校運営協議会」を立ち上げて、地域に根ざした学校づくりを町全体で取り組む体制が出来上がった。それぞれの地域の良さを生かして、更に地域に根ざした学校となるべく、各校が特色ある学校づくりに取り組んでいる。

学校は、社会と連携・協働した教育活動を更に充実させることが求められている。魅力ある学校・職場にするために、そして、地域に根ざした「チーム学校」を推進するために、教頭としてできることを実践していきたい。

2 研究の内容

(1) 北宇和郡小中学校の取組

ア 各校へのアンケートの実施

北宇和郡内各小中学校の様々な取組や現状を把握するために、各校の教頭に協力を依頼した。

(ア) コミュニティ・スクールについて

鬼北町は学校独自、松野町は町全体という違いがある。その協議内容は、学校経営、学校評価、いじめ防止基本方針、ふるさと学習、学力向上、健全育成、避難所運営等、地域や学校の実態に沿った実効性のあるものとなっている。

コミュニティ・スクールの取組が、働き方改革にプラスになっている事項は、登下校の見守り（地域の方の協力）、学校行事での補助、子どもと向き合う時間の確保、地域コーディネーターの存在等が挙げられている。中でも大きいのは、地域コーディネーターの存在である。各校とも、地域との連絡調整等で教員の負担軽減につながっているという回答が得られた。郡内の小学校には学級担任をしている教頭が多く、日々の授業の合間を見付けて外部と折衝することは、精神的にも肉体的にも苦痛な部分があった。それが軽減されることは、学校にとって大きなプラスであり、子供たちと向き合う時間の確保につながっている。

(イ) 勤務時間について

超過時間合計値の平均（4月～10月）		数字は学校数を示す（全学校数：11校）			
時間	超 過 時 間				
	25 時間まで	26 時間～ 30 時間	31 時間～ 35 時間	36 時間～ 40 時間	40 時間～ 45 時間
2 年度	0	1	3	3	4
3 年度	1	3	4	2	1

超過時間を比較してみたところ、昨年度からは大幅に減少している。学校別では、ほとんどの学校が、2時間から8時間程度の幅で減少するという良好な結果が見られた。しかし、学校によっては、教頭が遅い時間帯まで勤務している学校も見受られる。これは、上記(ア)でも述べたように、教員数により教頭が学級担任をせざるを得ない現状があり、勤務時間に大きな影響が出ているものと考えられる。

(ウ) 北宇和郡教頭会の取組

北宇和郡教頭会では、夏季休業中に行う研修会において、その年度末に退職される郡内の校長先生方から講話を頂いている。今年度は、コロナ禍により開催が危ぶまれたがリモート開催により研修を深めることができた。講話では、教頭職に対する心構えを「教頭職の醍醐味」としてお話いただき、さらには学校運営に関することまで幅広く御示唆いただいた。御自身の経験からくる言葉の重さに身の引き締まる思いである。各校に

持ち帰り、日々の勤務の中で実践し、児童生徒や教職員に還元していきたいものである。



イ 結果の概要と考察

郡内の教頭は、教職員一人一人の勤務を軽減するという共通の同じ課題を持って日々の業務に携わっている。そこで、各教頭は、積極的にコミュニケーションを図ったり、教職員間での協働体制がとれるように、気配り・目配りを意識し、試行錯誤しながら声を掛けたりして職員室を守っている。スクール・サポート・スタッフ等の力もうまく活用していくように、教頭が教職員に啓発していくことも重要である。

業務の負担軽減のためにICTも活用されているが、使用している中で、使いづらさという機能の面での問題点も出てきている。この不具合を徐々に解消して実効性のある活用ができるように先頭に立って業者に働き掛けていくことも、教頭に課せられた一つの課題であると考えている。

(2) 自校の取組

ア 地域とつながる学校となるために

本校は、生徒会活動の一環として「まちおこプロジェクト」という活動に取り組んでいる。これは、各委員会に関する活動を、校内だけでなく地域の方々も巻き込んで実施していこうという壮大なプロジェクトである。この活動により、「ふるさと松野」に愛着を持ち、誇りに思う気持ちを育むことを目的としている。生徒総会において方向性を確認した後、各委員会で具体的な活動計画を練っていった。この活動における教頭の役割は、地域との橋渡し役になることである。6月末に実施された「第1回松野町立学校における学校運営協議会」では、このプロジェクトの活動計画を委員の方々に説明し、各立場での協力をお願いした。また、関係機関と生徒との打合せの場に参加し、教頭の立場から助言を行った。今までに実施したプロジェクトでは、コロナ禍でできる範囲で、地域の方々の協力を得ることができ、充実した活動へとつなげることができた。関係機関の様々な協力を通して、地域の方々からの心温まる反応もあり、生徒たちは達成感を味わい、自己肯定感や自己有用感を高めている。



イ 充実した勤務にするために

教職員が働きがいのある職場にするために、勤務時間の見直しと教職員の資質・能力の向上を中心に取り組んだ。

ミライムの出勤・ 退勤システム	各月合計値の平均			各月平均値の平均		
	勤務時間	労働時間	超過時間	出勤時刻	退勤時刻	超過時間
令和2年度	190:12	176:35	43:13	7:29	17:19	1:55
令和3年度	165:09	153:10	36:39	7:27	17:14	1:57

上記の表を見て分かるように、時間だけで見れば本校の勤務は良好な結果であるが、小規模校だからという部分は多分にあると考えられる。少ない教職員の中では、一人一人が担う校務分掌はおのずと増えてくる。そして、ある先生に負担が掛かってしまうという現状がある。限られた人数であるので、一人一人がアンテナを少し高くして周囲の状況を見

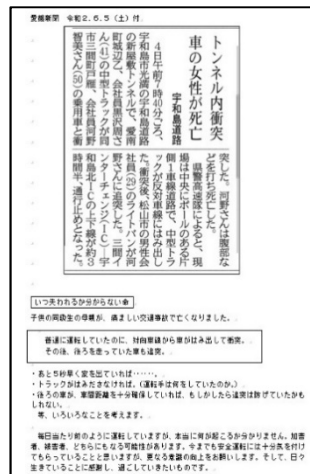
て、互いに助け合う雰囲気を醸成するように働き掛けた。大変ではあるが、その一つ一つが教師集団の資質・能力の向上につながるものと信じて取り組んでいる。

子供に関わる様々な問題で教職員に指導・助言をするときは、その人に合わせて、場所・話し方等を意識しながら行っている。少ない教員数の中では、一人一人が貴重な戦力である。各教員が持っている良さを認めながら、子供たちのために動ける教職員の集団をつくっていききたい。教頭として、「チーム学校」としてどのように動かしていくかを常に意識して業務に取り組むことが、生徒の健全育成につながるものと信じている。

ウ 情報発信活動

地域とつながる学校として重要な教頭の任務に、様々な情報発信がある。本校は、学校ホームページや学校だよりによる情報発信を積極的に行っている。学校ホームページの更新は、校長と分担しながら、1日に3回（給食を入れると4回）を基本としている。様々な内容の記事を取り上げ、自分自身も楽しみながら更新している。学校だよりは、月2回発行を目標としている。夏季休業中に、教育委員会と町内の学校が合同で「通学路の点検」を行った。危険箇所を中心に2学期以降の対策を協議し、その結果を生徒に伝達し、学校だよりにも掲載した。このように、常に情報を更新することにより、学校のタイムリーな情報を地域の方々にも把握してもらうよう心掛けている。

また、教職員に対しても、時機を逸しないように情報を発信している。以下に、上記資料に載せているコメントを載せる。（交通安全推進協議会会長として発信）



＜いつ失われるか分からない命＞
子供の同級生の母親が、痛ましい交通事故で亡くなりました。
「あと5秒早く家を出ていれば……。」「後ろの車が、車間距離を十分確保していれば、もしかしたら追突は防げていたかもしれない。」等、いろいろなことを考えます。
毎日当たり前のように運転していますが、本当に何が起こるか分かりません。加害者、被害者、どちらにもなる可能性があります。今までも安全運転には十分気を付けてもらっていることと思いますが、更なる意識の向上をお願いします。そして、日々生きていることに感謝し、過ごしていきたいものです。

(3) 成果と課題

北宇和郡教職員の勤務実態や教頭の取組について、様々な実践を確認することができた。少ない教職員で業務を行わなければならない現状は、これから先も変わらない。各校の「チーム学校」としての取組が問われてくる。この現状を打破していく第一歩が、「コミュニティ・スクール」への取組である。各校とも、コロナ禍により、開催や活動に様々な制限を余儀なくされているが、その中で地域性を生かした運営ができており、児童生徒の健全育成や教職員の業務改善に反映されている。

これからは、アンケート結果を郡内教頭で共有し、各校の取組を参考にしながら更なる業務改善に向けて歩を進めていかなければならない。その中心となるのが教頭である。強いリーダーシップを持って、「授業改善のための時間と子供に接する時間の確保」につながるよう、教職員の意識改革を図っていかなければならない。

3 おわりに

前任校と比べると地域性の違いはあるが、児童生徒のために職務を全うするという教職員の意識は変わらない。学校・家庭・地域が連携した教育を推進していくことが、児童生徒の健全育成、そして、「チーム学校」につながっていく。子供も教職員も、「楽しい学校」を追究する日々には終わりは無い。職員室の担任として、一人一人がやりがいを持って日々勤められる教職員の集団となることを願い、教頭職を全うしていきたい。